

## 7. 河川空間の現状

せたな町は、平成17年9月1日、大成町、瀬棚町、北檜山町の3町の合併により誕生。  
本章では、流域の状況をより詳しく説明するため、旧自治体区分で記述する。

### 7-1. 河川敷等の利用状況

#### ① 河川敷地の利用状況

後志利別川の年間河川空間利用者総数（推定）を以下に示す。

平成15年度の利用者数の推計は約94.8千人である。沿川市町村人口からみた年間平均利用回数は約6回となっている。

利用形態別では、スポーツが54.7%と最も多く、次いで散策等が34.0%を占める。釣りは7.2%、水遊びは4.1%である。

利用場所別には高水敷が67.6%と最も多く、次いで堤防が21.0%である。高水敷と堤防で88.6%の利用となっている。平成15年度は平成12年度と比べ、高水敷の利用が増加しているが、これは近年のパークゴルフ人気から利用者が増えたためである。

形態別に見ると、スポーツが増加し、釣りが減少している。これも近年のパークゴルフ人気から利用者が増えたためである。

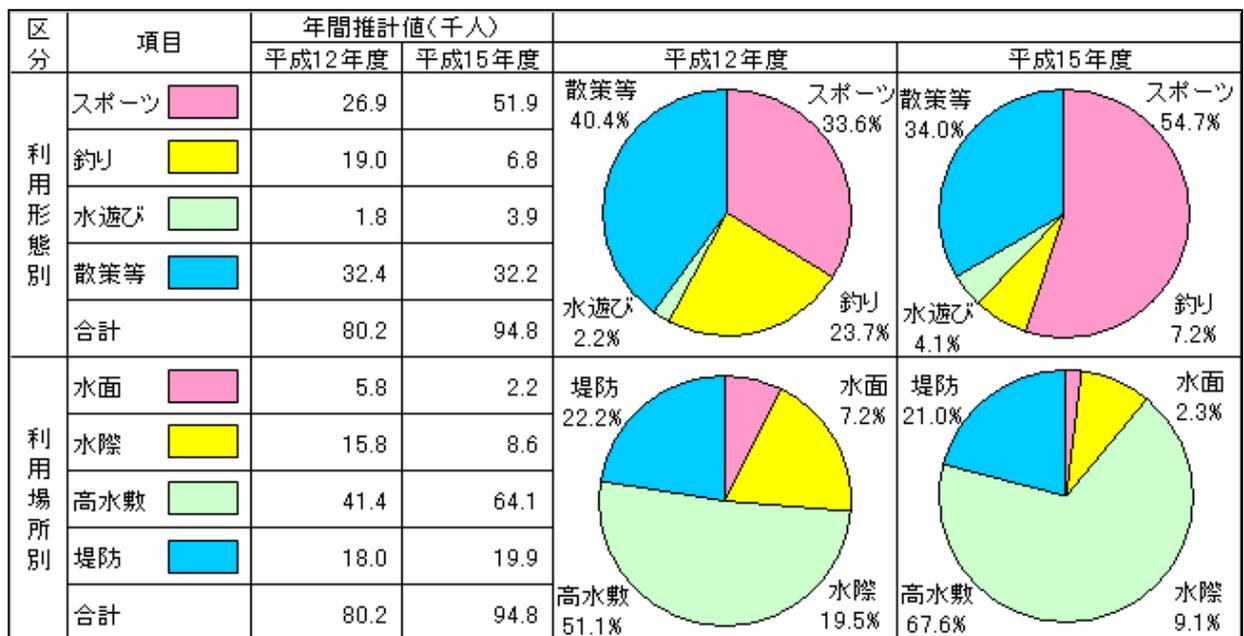


図7-1 後志利別川の年間空間利用状況

(出典：河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査))

## ② 高水敷の利用状況

後志利別川の直轄管理区間の利用状況は、採草放牧地が最も多く 86 件 1,215,583 m<sup>2</sup>を占有している。次いで畑の 43 件 281,332 m<sup>2</sup>、公園・緑地の 3 件 100,061 m<sup>2</sup>となっている。

河口部付近では、改修前の形状の名残から、現在の河川位置から若干離れたところでの採草地や水田の占有が目立つ。旧北檜山町では、支流の真駒内川合流点から 1km の本流右岸と真駒内左岸 500m に渡って桜づつみ（旧北檜山町）が整備されており、地域のシンボリック的存在となっている。また、桜づつみと水面の間は採草地であり、緑地空間が連続した気持ち良い空間となっている。今金町の市街部周辺では、今金橋を中心として公園占有（今金緑地運動公園野球場、パークゴルフ場）されており、地域住民のスポーツの場、憩いの場、交流の場として利用されている。美利河ダム下では公園が整備されている。

表 7-1 河川敷地の占有状況（直轄管理区間）

単位：ha、下段（ ）：%

| 河川名   | 河川公園 |      | 水田耕作 |      | 畑耕作 |      | 採草地 |      | 放牧地 |      | 仮設建物 |      | その他 |      | 合計  |       |
|-------|------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|-------|
|       | 件数   | 面積   | 件数   | 面積   | 件数  | 面積   | 件数  | 面積   | 件数  | 面積   | 件数   | 面積   | 件数  | 面積   | 件数  | 面積    |
| 後志利別川 | 5    | 11.0 | 23   | 12.4 | 47  | 24.2 | 75  | 96.4 | 0   | 0.00 | 0    | 0.00 | 176 | 38.4 | 326 | 182.4 |
|       |      | (6)  |      | (7)  |     | (13) |     | (53) |     |      |      |      |     | (21) |     | (100) |

注) 平成 17 年 10 月 17 現在

## 7-2. 河川の利用状況

後志利別川の上流では、高水敷や州を活用した自然観察、炊事遠足、カヌー、アユ釣りの利用が行われている。中・下流では、今金町河川緑地運動公園、旧北檜山町の桜づつみ、サケ・マス観察広場（真駒内川）が整備されている。河口には、北海道南西沖地震を偲び、希望公園が整備されている。

後志利別川では、その清流を守るため「後志利別川清流保護の会」等の地元活動団体等による河川愛護活動、植樹会や川の楽しみを広げる催しやイベント等を行う団体など、様々な活動が行われている。



上流での釣り



今金河川緑地運動公園



希望公園



高水敷利用状況



植樹会